

静岡県社会体育施設指定管理者評価委員会による評価結果

平成 31 年 2 月 1 日

静岡県文化・観光部スポーツ局スポーツ振興課

1 趣旨

静岡県立水泳場、静岡県富士水泳場及び静岡県武道館については、平成25年度から第3期となる指定管理者による管理運営が行われています。

施設名	指定管理者	指定期間
静岡県立水泳場	静岡県体育協会グループ	平成25年4月1日から 平成30年3月31日まで (5年間)
静岡県富士水泳場	静岡ビル保善株式会社	
静岡県武道館	静岡県体育協会グループ	

これらの施設における管理運営が、利用者サービスの向上と管理経費の縮減という指定管理者制度の目的を達成しているか、また、公の施設として条例に掲げる設置目的の達成に貢献しているか等について、客観的な評価を行うため、第三者の委員からなる評価委員会を設置し、委員会による評価を行いました。

2 評価委員会の実施について

施設名	実施日	内容
静岡県立水泳場	平成 30 年 10 月 31 日	指定管理者による事業実績説明
静岡県富士水泳場		質疑応答 指定管理者による事業実績説明について質疑応答
静岡県武道館		意見交換及び評価 意見交換後、委員ごとに評価を実施 評価・講評 委員会としての評価の決定及び各委員からの講評

(評価委員会) ◎=委員長、○=委員長代理

氏名	所属・役職
佐藤 克昭◎	佐藤経済研究所 所長、浜松学院大学 客員教授
川口 良子○	合同会社デザイン・アープ 代表
鈴木宇多子	静岡県スポーツ推進委員連絡協議会 副会長
前田 恭伸	静岡大学工学部 教授
村田 真一	静岡大学教育学部 講師

3 評価について

以下の「評価の視点」「評価項目」に基づき評価を行いました。

評価の視点	評価項目		配点
○施設の管理運営を適切に行っているか ○競技力の向上及び指導者の養成を図るとともに、県民の健康増進とスポーツの振興に寄与しているか	①	経営管理	20
	②	管理運営体制	20
	③	利用者サービスの向上	20
	④	危機管理体制等	20
	⑤	求められる業務水準	20
計			100

4 評価結果について

評価区分は、「優」「良」「可」「要改善」の4段階で、各委員の採点の平均点に基づき決定しました。総合評価は各評価項目の得点の合計により決定しました。

施設名	静岡県立水泳場						
指定管理者名	静岡県体育協会グループ						
評価	総合			優			
	評価項目別	評価項目	①	②	③	④	⑤
		得点	18	18	17	15	17
		評価区分	優	優	優	良	優
内 容							
主な評価点：良いと評価した取り組み等 提言：改善や一層の努力を求めたい点等							
主な評価点	<ul style="list-style-type: none"> 着実な管理運営体制の下で、適切な業務の実践が図られており、安定した収益計上が継続されている。 大会・合宿を中心に目標を大きく上回る利用者数が確保され、役割発揮と収入増に結びつけている。 						
提言	<ul style="list-style-type: none"> 自主事業収入は減少が続き、各種教室の満足度も低下していることから、改善に取り組むよう期待したい。 危機管理マニュアルにおける災害対応や、事故防止への考え方など、危機管理体制の見直しが求められる。 						

施設名	静岡県富士水泳場						
指定管理者名	静岡ビル保善株式会社						
評価	総合			優			
	評価項目別	評価項目	①	②	③	④	⑤
		得点	18	18	18	18	18
		評価区分	優	優	優	優	優

内 容	
主な評価点：良いと評価した取り組み等 提言：改善や一層の努力を求めたい点等	
主な評価点	<ul style="list-style-type: none"> 施設環境の改善など管理運営や、競技力向上への取り組みが促進され、アンケートの満足度も大きく向上した。 適切なリスク管理により、利用者の安全確保への取り組み強化、事故発生ゼロの達成は高く評価される。
提 言	<ul style="list-style-type: none"> 実績を考慮した予算作成、老朽化を踏まえた設備機器の維持改善など、計画的な取り組みへの留意が望まれる。 大会等の貸切り増の一方、一般利用者数は減少しており、自主事業のPRなど一層の増加対策が期待される。

施設名	静岡県武道館						
指定管理者名	静岡県体育協会グループ						
評 価	総合	優					
	評価項目別	評 価 項 目	①	②	③	④	⑤
		得 点	18	18	17	15	17
		評 価 区 分	優	優	優	良	優
内 容							
主な評価点：良いと評価した取り組み等 提言：改善や一層の努力を求めたい点等							
主な評価点	<ul style="list-style-type: none"> 利用料・自主事業とも収入増が図られ、光熱水費増の抑制など経費節減に努めて、収益増加に結びつけた。 多彩で独自の自主事業を数多く実施し、幅広い県民の健康増進やスポーツの振興へ着実に貢献している。 						
提 言	<ul style="list-style-type: none"> アンケートにおける満足度が全体にわたって低下しており、原因の究明と効果的な対策の実施が期待される。 危機管理マニュアルにおける災害対応や、事故防止への考え方など、危機管理体制の見直しが求められる。 						

(評価区分)

評価区分	基 準	意 味
優	配点の85%以上	大いに評価できる
良	同 70～85%未満	評価できる
可	同 50～70%未満	普通
要改善	同 50%未満	改善を要する

5 評価委員会の議事録について

評価委員会における質疑応答の際の議事録は別紙のとおりです。

別紙

< 発言 > ● 委員 □ 指定管理者

【県立水泳場】

●利用者増を達成している反面、利用者の全体的な満足度が低下している。利用者が増えたが故に手が回らなくなる部分等があったのではないかと。

□トレーニングマシンについて、保守点検を行っているものの故障が発生したり、使用者の思うように動かなかつたりといった状況から満足度が低下していると思われる。その他も職員が気づいた点については報告・共有しており、清掃等に活かしているが手が回りきらない面がある。

雇用期間（1年）の関係上職員の入れ替わりが多くサービスが行き届いてない部分があり、満足度の低下に繋がっている可能性もある。事務局職員も送り込み、教育に努めている。

●危機管理について2点伺いたい。

危機管理マニュアルに東海地震情報発信時の対応が書かれているが、すでに廃止されている制度である。なぜこの記述があるのか。「AEDの日常点検について」というページについて、このページにはリース元の会社の情報（連絡先）しか載っておらず、日常点検について記載がない。体育協会内全体で、マニュアルの作成・見直し等の仕方がおかしいのではないかと。

□東海地震に関する情報については、新制度における対応等について県からの指示がなかったため29年度から記載が変わっていない。

●危機管理は自分たちで行うものであるため、指示等は関係なく、変えていかなければいけないものである。

□東海地震については、新たな制度に適合するようマニュアルの改訂を実施する。

AEDについても御指摘のとおり、連絡先だけではなく日常点検に関する事項を記載しなければならぬため改訂を実施する。

●施設を管理しているものとして、効率化のために更新を希望する設備はなにか。そういった情報は設置者である県と情報共有を図りたい。

□優先度が最も高いのは電光掲示板である。供用開始から約30年経ち動作不良が発生している。大会の誘致に大きな影響があり、県水連からも改善の要望がある。次に、県庁設備課の省エネ診断でも指摘があったが、ボイラーの熱効率が非常に悪い点が挙げられる。設備面では以上2点が大きい。日常の運営面ではプールサイドの滑り止めを修繕したい。3年前に体協の財源で施行したが効果も落ちてきた。安全面からも改善したい点である。

●合宿の誘致をされたとのことだが、何回ほど実施されたか。また、競技力の向上にどのように繋がっているか。

□水球の合宿は3回実施されたと記憶している。見学してもらったり県内の水球チームと合同練習としたりすることで、競技力向上に繋がっている。中国の水球チームと合同としたこともある。

【武道館】

●施設の活用と言う観点で、課題と捉えている事項はあるか。

□一般利用と大会等との調整と言う観点では、大会時に利用できないトレーニング室が課題である。夜間開放は徹底しているため、広報等で大会開催日の夜間も利用いただけるようにしたい。また、大道場は個人開放していないため、稼働率が低いと捉えている。

アンケートの満足度低下については、アンケートのみでは原因を把握しきれないため、今年度は使用者の声に注意して耳を傾ける。

●文化的な教室は長く続けてやりたい方も多く、場所も道場ではない会議室のため、通年の方式にすぐに改められると思うがどうか。

□会議室は大会時に役員室などで利用されるので、調整が必要な面もある。また、受講回次が増えれば料金も上がり、申し込み時の負担が大きいのではないかと考えるが、検討したい。

●新電力導入などにより光熱水費を削減したとのことだが、実際の「使用量」は何れも増加している。

利用者増を反映しているものと捉えることもできるが、施設全体としての省エネを考えると、エネルギーの使用量の削減も考えるべき。そういった観点からも更新の優先度が高い設備はあるか。

□冷暖房は利用料金を徴収しているため、ガスの使用量は管理者側から削減することが難しい。その中でも共用部の冷暖房をこまめに切るなど、削減に努めている。水道については、30年度からの提案事項だが、節水コマの導入・節水型シャワーヘッドへの交換を5年間で順次実施していく。

設備の面については、給排水設備の各種ポンプの劣化が生じており修繕の優先度は高い。電気の削減の話にも通ずるが、各種照明のLED化を実施しており管理者ができる範囲はやりきったと認識している。大道場や第1・2道場については規模が大きく相当な投資になると見込まれるため、県において実施を検討して欲しい。

●危機管理マニュアルについては水泳場と同様に見直しを実施されたい。また、競技中の事故であってもこれを仕方のないこととしてしまうのは、リスク管理とは正反対の考え方である。

●武道はやはり身体接触があるため怪我が発生しやすいのか。

□空手は基本的に寸止めであるが、あたってしまうこともある。学生まではヘッドギア等の防具を装着するが、成人は生身である上に力もあって怪我となりやすい。競技団体への注意喚起を含めて、怪我事故の防止に努めたい。怪我等の発生後の対応については、救護・救急搬送など迅速・適正に対応している。

●手摺が外れる事故が発生しているとのことだが、頻発するのか。

□手摺に足をかけた者があり、その際に溶接が外れ転倒した。溶接が点溶接で強度が低いことが理由と考えられる。改善のためにはすべて取り替える必要があり、相当な投資となる。日常の点検の中でも注視し異常があれば即座に報告するよう指示している。

●本来溶接は最も強力な接着方法であるが、事故が発生した事実に鑑みると今後注意が必要と見える。改善へ向けた県への提言等も行われたい。

●利用者アンケートは、10才ごと男女別に各々30~40ほどサンプルを取るとある程度正確なデータが取得できる。

(県)本年度のアンケートからは、回答者の属性が分かる形に改善し正確なデータを取得できる形としたい。

【富士水泳場】

●例年指摘している事項であるが、当初予算と決算に非常に差がある点について理由は、利用者増を達成し、満足度も昨年度よりは改善したようである。一方で収入が減少しているが要因としては何が考えられるか。

□5年前の提案時に策定した内容を予算として記載しており、当時は収支0で提案書を作成した経緯があるので、現実と差が出てしまっている面がある。利用者満足度であるが、最低でも90%以上と言う意識で業務を行っている。やや満足・やや不満といった項目については次年度重点的に改善を図っている。

利用者増に対して収入が減少した要因は、全館貸切による専用利用にあると考えられる。貸切の場合人数に関わらず一定の料金であり、昨年度は大会・合宿での利用が多かったため、利用者増に対して収入が減少した。今年度は個人の利用者が伸びており、改善される予定。

●アンケートの利活用について、年代・性別ごとに分析等しているか。

□クロス集計は実施しているものの、今回の資料では記載がなかった。高齢者と若年層を重点的に伸ばしていくべきと言った分析結果も出ており、引き続きアンケート結果を活用したい。

●2年連続で事故ゼロは評価に値する。危機管理マニュアルについては、レジオネラ族菌への対応とAEDに係る記載がなかったが、どうしているか。

□レジオネラ族菌については法律に定めがある事項であり（仕様書にも規定有）、ビル管理が本業である面もあって細かく記載していなかった。本年度からはプラスアルファとして簡易検査キットによる検査も実施している。AEDについてもバッテリー等の問題もあるため、推奨されている点検整備を実施している。

●修繕費が増加しているが、要因等について所見等あるか。

□修繕の中でも高額のものは、何れも毎年実施する類の修繕ではなく今後も費用負担が発生するとは捉えていないが、水廻りの修繕が増えてきている印象。

●竣工後16年と言うことで、これから劣化が顕著に現れるようになる。劣化を見通した予算立てと、抜本的に解決が必要となる設備等についても目を配り、県と情報共有を図りたい。

□多くの方に利用していただいている反面その分劣化が激しくなる設備もある。空調や照明（水銀灯）については、効率化に向けても更新が必要かと思われる。

●教室事業が数ヶ月ごとで終了するが、同名の教室は同じ内容をやっているのか。

□教室の期間については、「春期教室に参加して、夏はお休み、秋期教室で再開」と言うような選択ができるように設定している。一方内容については、ヨガ教室を例にあげると、春期と夏期で受講生がほぼ同じであればよりレベルを上げた内容としたり、反対に夏期からの参加者の大部分が新規参加者であるような場合では春期と同じく初歩的な内容にしたりと、講師の先生と相談しつつ参加者によって柔軟に対応している。